

平成21年度（2009年度）作成
「自らつくる地域づくり事業」計画書

＜地区の未来像＞

**心安らぐ環境
躍動する個性
生きる魅力に
溢れる地域**

- 1 心安らぐ豊かな環境の保持
- 2 個々人の生きがいの創造
- 3 他を思いやる人間関係の構築

林 原 木 門 地 区

1 地区の立地条件と地域性（現状の把握）

林原木門地区の立地条件や地域性は、およそ次のように要約される。

(1) 河岸段丘上にあり、地理的には村の中心部に位置する。

林原地域の大部分は平坦地であり、木門地域は棚田を有するなだらかな傾斜地である、という違いはあるものの、両地域共に、北西に眺望が開け、中央アルプスを望むことができる風光明媚^{ふうこうめいび}の地である。道路が縦横に走り、交通手段さえあれば、村のどこへ行くにも、村のどこから来るのにも、大変便利であり、また、多数の企業が集まる飯田市に通勤する場合にも、あまり不便を感じない。

(2) 周辺に里山を有し、典型的な山村の田園地帯である。

山村ののどかな雰囲気の色濃く残り、周辺の里山も含めて、四季折々の景観を楽しむことができるため、都会地で生まれ育った人々にとっては、いわば癒^{いづ}しの空間とも呼べるものを持っている。しかし、反面、地元の農家には、シーズン中は作物を守るために、常に有害鳥獣対策が必要であり、雑草の除去等も重なって、大きな心労になっている。このギャップを埋めることが、当面の大きな課題である。

(3) 地区民の多くは勤めており、農業に従事する若者の数が少ない。

地区そのものはいわゆる農業地帯であるが、少なくとも現在のところ、若い農業後継者が次々と輩出してくる状況にはない。すなわち、地元の農家に生まれ育った若者でも、専業として農業に従事する例は極めて少なく、たとえ家に残る場合でも、近隣の会社等に勤務することが普通であり、それ故に、実質的に農地を管理している者は、中高年者あるいは高齢者が大半である。いわゆる兼業農家が多い。

2 地区の未来像（目標の設定）

地区の立地条件や地域性を考慮して、目標とする地区の未来像を次のように設定する。

心安らぐ環境 躍動する個性 生きる魅力に溢れる地域

(1) 心安らぐ豊かな環境の保持

安全安心に暮せることに加え、のどかな田園風景が広がり、四季折々の景観が楽しめるような、自然豊かで、心安らぐ地区をめざす。

(2) 個々人の生きがいの創造

地区民ひとりひとりが、活力に溢れ、地域としての一体感を保ちつつも、そこに埋没^{ぼつ}するのではなく、それぞれが個性豊かに人生を享受できる地区をめざす。

(3) 他を思いやる人間関係の構築

それぞれ異なる人生観や生活事情を背負う地区民同士が、お互いに理解し合い、協力することによって、相互に助け合うことができる地区をめざす。

3 自らつくる地域づくりの前提（態勢固め）

未来像を実現するために、地区民が、地域づくりに邁進^{まいしん}できる態勢を固める。

地域は、個々の住民、個々の家庭が集まって構成される。そのため地域づくりの前提は、その基盤となる個々の住民、個々の家庭が、それなりの態勢を整えていることが必要である。具体的には、個々の住民、個々の家庭が、少なくとも自身の生存・生活を維持できるだけの経済的な余裕を持ち、また、地域づくりに積極的に関

与できるだけ意欲や精神的な余裕を有していることが前提条件となる。余裕のない者のみが集まって問題を解決していくことは、理論上は可能としても、国や地方自治体と異なり、しっかりした財政的基礎を持たない行政単位である地区には、現実には極めて難しい。その意味で、自らつくる地域づくりには、まず第1に、地区内の各個人、各家庭レベルで態勢固めをすることが不可欠である。

4 当面の取り組み（課題と解決策）

地区の未来像を実現するために、当面の課題を洗い出し、それらを〈解決に村等の援助を要する事業〉と〈地区内で解決していく事業〉の二つに大別し、三つの目標に関連させたうえで、その解決策を次のように模索している。

<解決に村等の援助を要する事業>

(1) 「心安らく豊かな環境の保持」に関連して

① 虻川大橋の整備について

<課題.>

本来は名所であるべき虻川大橋が、悲劇の温床になっている。

<解決策>

- a 自殺防止のフェンスを設置する。
 - b 美観向上のため欄干を塗装し直す。
 - c 橋に歩道を設け、周辺の山々等を整備して、溪谷美を楽しめるようにする。
- * 上記の事項を実施したうえで、地区の観光名所になる可能性を探る。

<取り組みの方向>

虻川大橋は地区の管理下にはないので、要望をまとめて村に申請し、資金の負担等も含めて、解決を村等に要請する

② 飯沼平の防火用貯水池の改修について

<課題>

老朽化が進んでおり、取水にも不便をきたしている。

<解決策>

- a 取水口、排水口等を改修する。
- b 防護網を取り換える。

<取り組みの方向>

村の総合防災対策との関連があり、また、地区のみでは負担しきれない実情もあるので、要望をまとめて村に申請し、資金の負担を相談する。

③ 消防団詰所（消防及び防災の器具置場）の改築について

<課題>

老朽化が進み、機能面で不便をきたしている。

<解決策>

- a 現在地に改築するか移転改築するか等、詳細を検討して村に申請する。

<取り組みの方向>

消防団の詰所は役場の管轄になるので、地区としては要望のみする。

④ AED（自動対外式除細動器）や飲料水浄化装置の設置について

<課題>

一朝有事の際の機器が、地区内に整備されていない。

<解決策>

- a 集会等で、参会者に不整脈等異常が発生した際に対処するため、AEDを配備する。
- b 地震等の災害時に、安全な飲料水を確保するため飲料水浄化装置を設置する。担架やテント等災害時に必要な用具を購入する。

<取り組みの方向>

設置場所や管理方法等を検討したうえで、村に資金的な援助を要請する。

⑤ 通学路への防犯灯の増設について

<課題>

通学路に、安全上防犯灯を設置したほうがよい場所がある。

<解決策>

- a 特に中学生の帰宅時の安全を確保するため、通学路に防犯灯を増設する。

<取り組みの方向>

増設場所を詳細に検討したうえで、村に要望する。

(2) 「個々人の生きがいの創造」に関連して

① 「交流の里づくり事業」に関する資材保管庫の新設と機械等の購入について

<課題>

「交流の里づくり事業」を継続し、さらに発展させるためには、施設設備や機械器具等が欠けている。

<解決策>

- a 専用の資材や機械器具の保管庫を新設する。
蕎麦の播種機や必要な器具、道具類を購入する。

<取り組みの方向>

事業の将来的な展望を詳細に検討したうえで、村に事業の継続（資金的な援助）を要望する。

<地区内で解決していく事業>

(1) 「心安らぐ豊かな環境の保持」に関連して

① 防災訓練への参加について

<課題>

毎年定期的に防災訓練を実施しているが、1世帯1名のみ参加になっており、万一の場合に大変不安である。

<解決策>

- a 災害時への対処を強化し、訓練をより実践的なものにするために、可能な限り全世帯で原則として家族全員の参加をめざす。

<取り組みの方向>

地区委員会が中心になって改善を呼びかけていく。

② 有害鳥獣の駆除や対策について

<課題>

近年、水田や果樹園、野菜畑等に、野鳥、鹿、イノシシ、ハクビシン等の、いわゆる有害鳥獣が出没し、被害が大きくなっている。

<解決策>

- a 現状では各世帯で個々に対策を講じているが、より効果を上げるため、地区全体で協力し合う体制をつくる。

<取り組みの方向>

具対策を検討し、必要なら村にも相談する。

③ コミュニティセンター西側の花壇の管理について

<課題>

定期的な管理がされていないため美観を損ねている。

<解決策>

- a 常時美観を保つために定期的に管理する。

<取り組みの方向>

当面、ボランティアの会、日赤奉仕団、地区委員会等が協力して対処する。

(2) 「個々人の生きがいの創造」に関連して

① 「交流の里づくり事業」の更なる発展について

<課題>

現在、遊休農地を借りて蕎麦を栽培し、コミュニティセンター周辺に桜やアジサイ等を植樹しているが、さらに事業を発展させたい。

<解決策>

- a 生産した蕎麦で、蕎麦饅頭等加工品を作り、販売する。
- b コミュニティセンターの調理室で作った食品を販売できるよう対策を講じる。
- c コミュニティセンター周辺を整備し、地区民の交流場所にする。
- d 桜の開花時期や蕎麦の収穫後に、地区の文化事業を実施する。

<取り組みの方向>

「交流の里づくり事業」の将来像をじっくり検討したうえで、対策を練る。

② 高齢者クラブ（長寿会）の復活について

<課題>

数年前に役員の引き受け手がなくて消滅してしまった高齢者クラブ（長寿会）を復活したい。

<解決策>

- a 65歳以上の地区民を自然加入（強制加入？）にしたらどうか。
- b 役員の負担軽減のため、また、会員も参加しやすくするため、実施する会合や行事の回数を制限する。

<取り組みの方向>

委員会で、情報を収集し、様々な状況を検討したうえで対処する。

③ 獅子舞保存会の課題について

<課題>

若い会員は増加したが、年配者の活動への参加が少ない。

<解決策>

- a 60歳代70歳代の経験者に活動への参加をお願いする。

<取り組みの方向>

獅子舞の技術の伝承も関連しているので、年配の経験者の参加しやすい状況を

探る。

④ 神輿会の課題について

<課題>

発足して間もないので、どのように発展させていったらよいのか思案している。

<解決策>

- a 先進地の状況を学ぶ中で、今後の方向を見出す。
- b 現在、神社秋季祭に演行しているが、その際の場所や時刻等も検討する。
- c 花火との共演も可能なので、花火奉賛会との連携も視野に入れて考える。

<取り組みの方向>

保育園児や小学生の神輿も加わり、陣容は整ったので、様々な見地から具体的な方策をたてる。将来的には女性神輿も考えられる。

⑤ 育成会の課題について

<課題>

正月の伝統行事の「どんど焼き」を維持発展させていく方策が必要である。

<解決策>

- a 「どんど焼き」など正月に関連した行事の歴史や意義を学ぶことから始める。
- b 正月行事に詳しい年配者にも応援をお願いする。

<取り組みの方向>

地域の伝統行事で貴重なものについては、その行事に先立って簡単な学習会などを企画してみることも一つの方法である。

⑥ 春祭りや秋祭りなど、神社の祭典に関連した課題について

<課題>

神社祭典への参加者が役員や隣組長のみといった状態を改善したい。

<解決策>

- a 神殿の改築、境内の整備といったことも視野に入れて改善策を検討する。

<取り組みの方向>

時代の流れ、社会の変化、信教の多様化等々、状況が以前とすっかり異なっていることも踏まえ、ある程度弾力的に考えて対処することも必要か。

(3) 「他を思いやる人間関係の構築」に関連して

① ボランティアの会の活動の活性化について

<課題>

現在、会員は女性のみで男性がいないため、活動が限られてしまう。

<解決策>

- a 呼びかけを行い、活動の重要性を周知させて、男性の加入を実現する。

<取り組みの方向>

相互扶助の精神で社会を心温まるものに変えていくには、ボランティアの会の活動は極めて重要である。問題解決に委員会等が積極的に関与する方法も考えられる。ボランティア活動が機能しているかどうかは社会の進歩の尺度になるので、早急に対策を講じる必要がある。